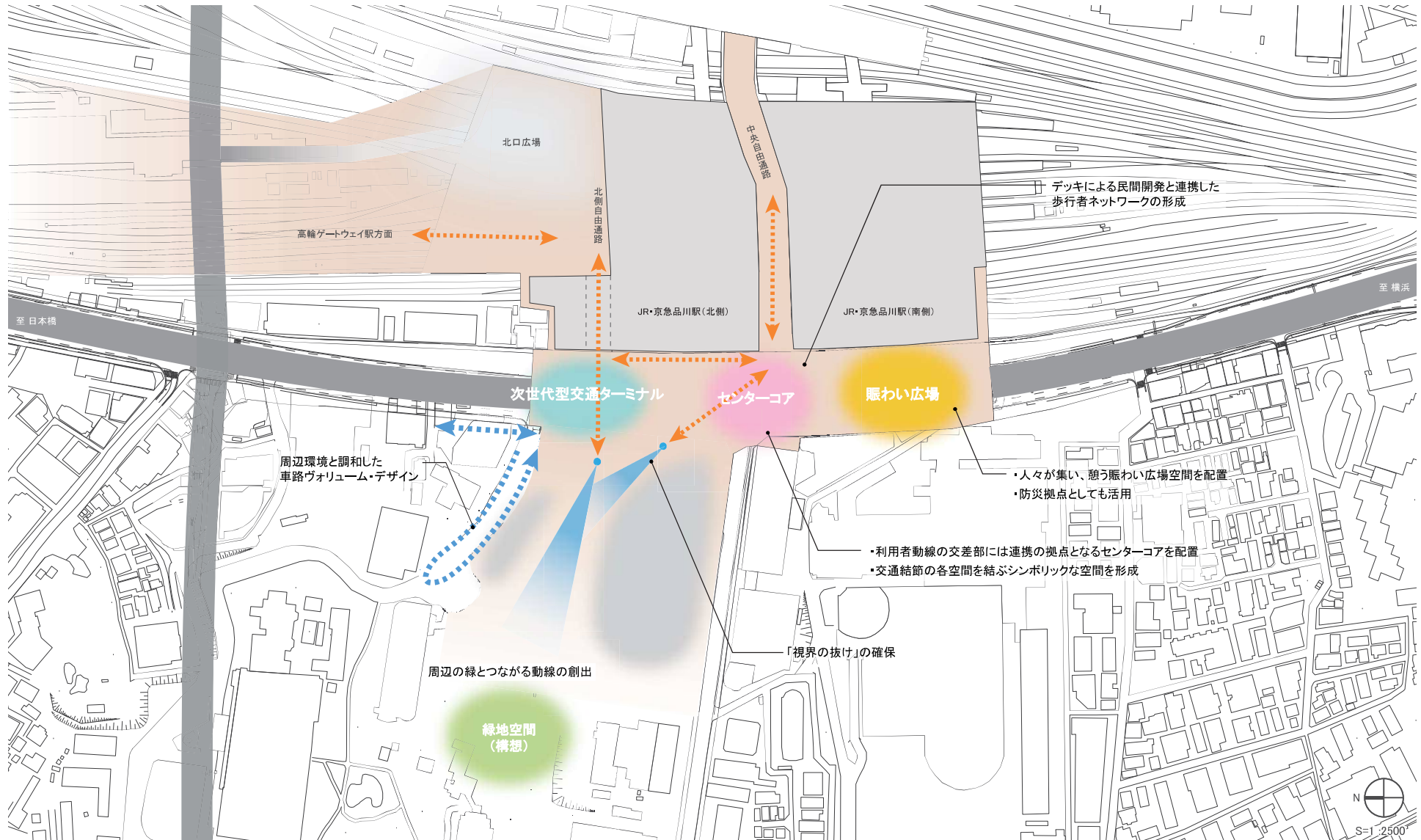


次世代型交通ターミナルの配置計画の考え方

交通広場(次世代型交通ターミナル・センターコア)の施設配置の考え方

交通広場の施設配置については【品川駅・田町駅周辺まちづくりガイドライン 2014】と整合した計画の必要性

- ・ 駅および駅前広場とまちの視線のつながりに配慮し、開発地内に整備される広場の空間からの「視界の抜け」の確保
- ・ 駅および駅前広場とまちの互いの交流において、それぞれのビューポイントからの見え方に配慮した景観形成

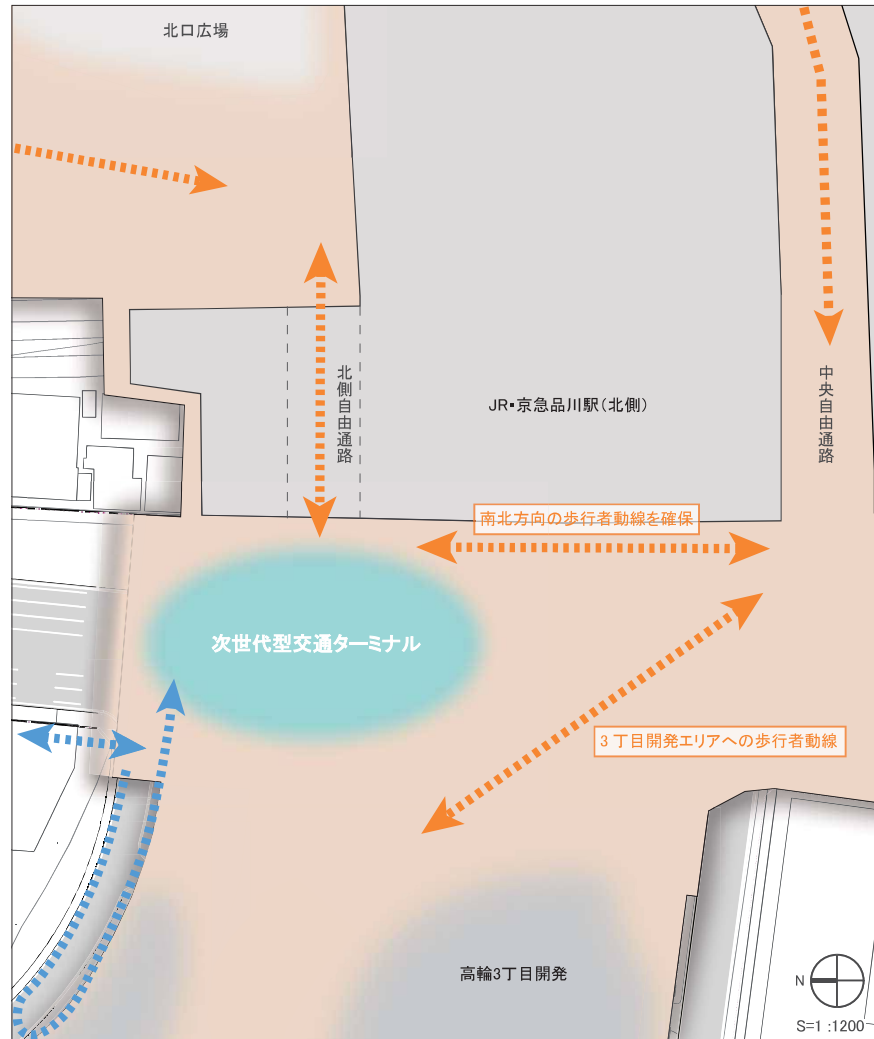


次世代型交通ターミナルの配置検討

今後、次世代型交通ターミナルの配置計画については PPP/PFI の手続きを踏まえ、各民間事業者等における需要見込み、ターミナルの魅力づくり、具備する機能等を考慮し、総合的に検討（参考資料参照）

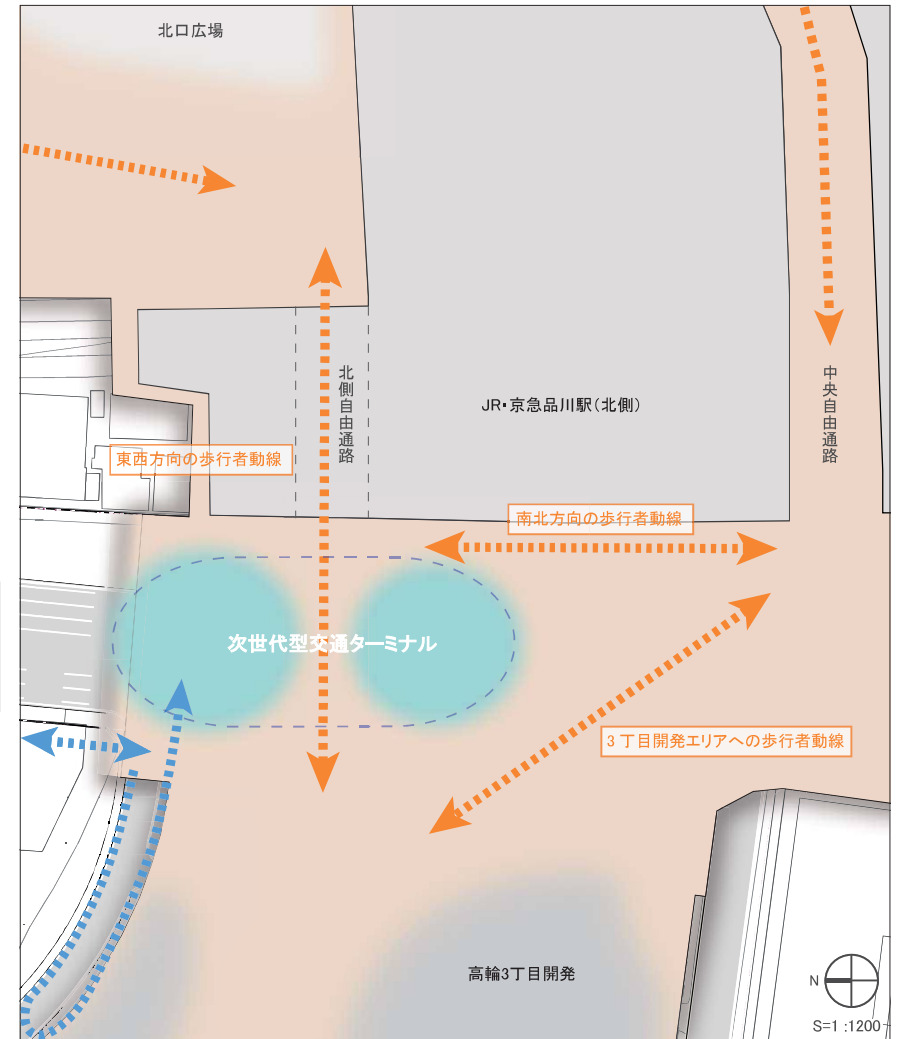
次世代型交通ターミナルを一体的な建物とした場合

- ・一体的に整備することで象徴的な大空間を実現可能
- ・まとまったスペース（デッキ直上約 3,000 ㎡）となるため、将来の需要の拡大へ対応しやすいが、建屋を段階的に整備することは困難
- ・北側自由通路から高輪 3 丁目方向への動線を分散



次世代型交通ターミナルを2棟の建物に分けた場合

- ・分棟による機能配置とすることから、周辺街づくりの進捗に応じた段階的整備の検討の可能性が広がる
- ・一体的なデザインについて検討が必要となるが、分棟により次世代モビリティの技術動向、需要の発生状況に応じ、整備のコンセプト、テーマ設定を考慮した整備の工夫が可能
- ・北側自由通路から高輪 3 丁目方向への動線を確保



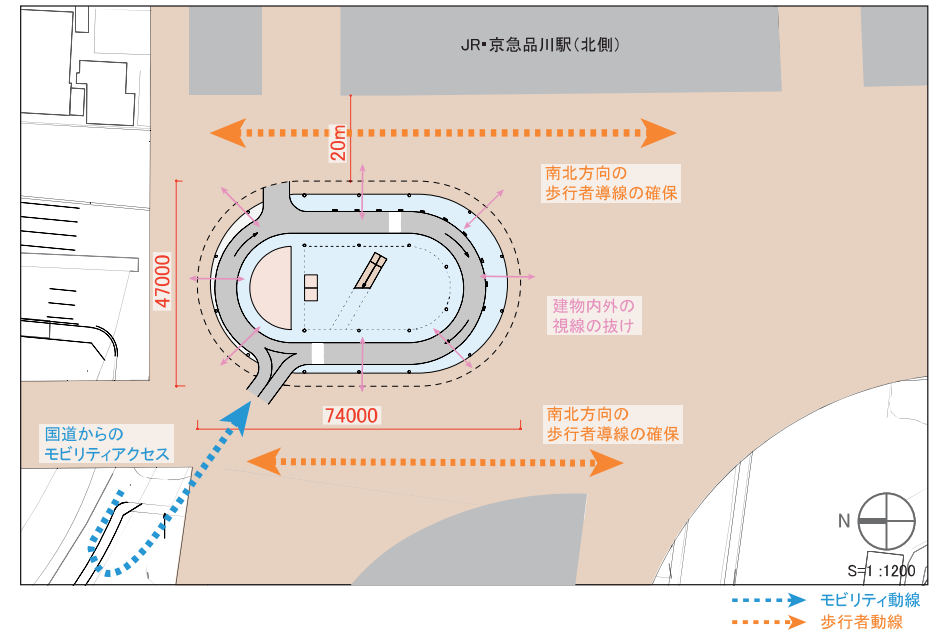
■デザイン方針

- ・周囲から内部の機能や活動が見える設え：透過性の高い外装、吹き抜け空間
- ・自然光を取り込んだ明るい空間：トップライト+吹き抜け空間
- ・フレキシブルな利用を可能にする平面計画：展示・イベントスペース、ラウンジ・ギャラリー

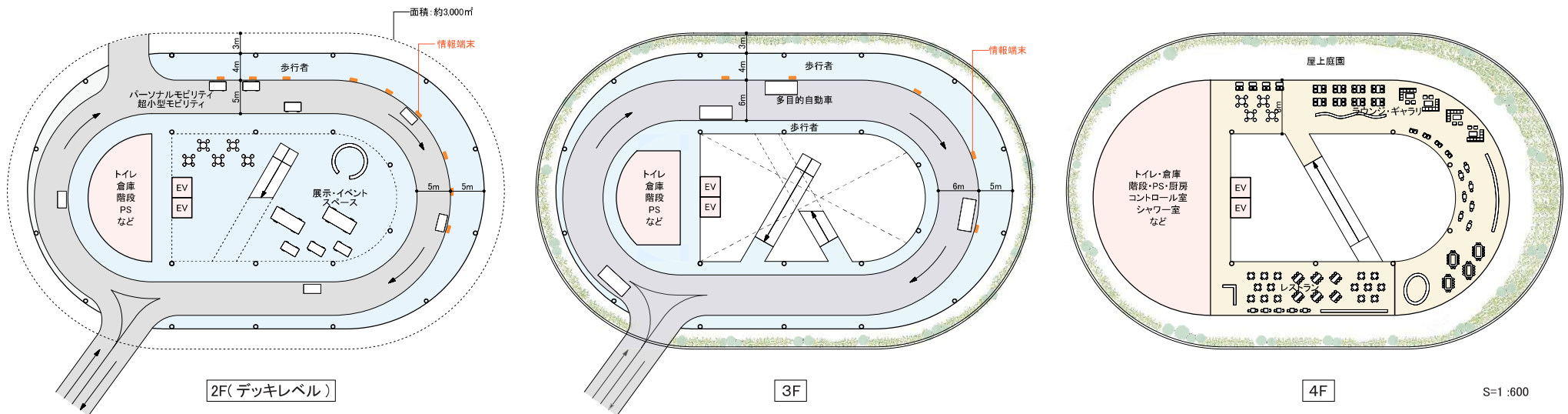
■前提条件

- ・各階の機能
 - <2F (デッキレベル)>
 - パーソナルモビリティ、超小型モビリティの乗降スペースを設置 → 迅速な乗り換えが可能
 - 中央部に展示、イベントスペースを設置
 - <3F>
 - 多目的自動車 (e-palette) の乗降スペースを設置 → 時間のかかる乗降に対応
 - <4F>
 - ラウンジ、ギャラリーを設置
- ・2Fと3Fの車の往来は想定しない (車用EV等は設置しない)
- ・2Fと3Fの各階から国道にアクセスするための車路を設置

[配置図]



[平面図]



※建築基準法による避難規定等について要確認
 ※建築基準法に基づく手続きが必要

■空間イメージ

□吹き抜け空間

中心に吹き抜け空間を設けることで、施設内に光を取り込むと共に、利用者が各階を見渡すことができる



吹き抜け空間 イメージ 1



吹き抜け空間 イメージ 2

□ラウンジ、ギャラリー

待合や情報提供に用いるラウンジ、ギャラリー機能を設ける

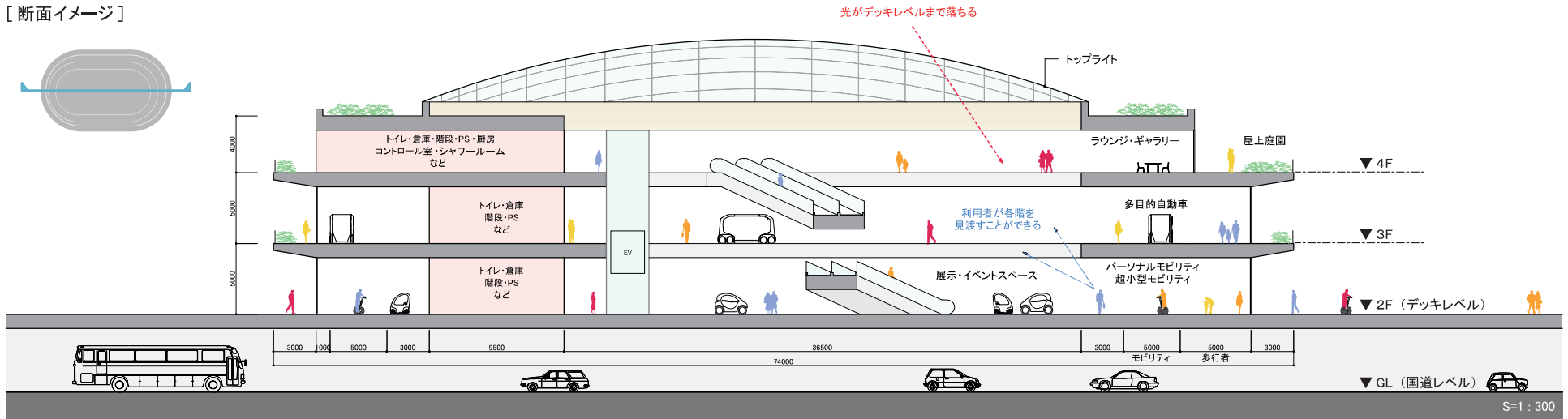


ラウンジ イメージ 1



ラウンジ イメージ 2

[断面イメージ]



□乗降スペース

乗降スペースには情報端末が置かれ、行き先の情報や観光ルート等を検索できる



乗降スペース イメージ 1



乗降スペース イメージ 2

□展示・イベントスペース

デッキレベルと連続した展示・イベントスペース



トヨタショールーム MEGA WEB



BMW museum

※建築基準法による避難規定等について要確認
※建築基準法に基づく手続きが必要